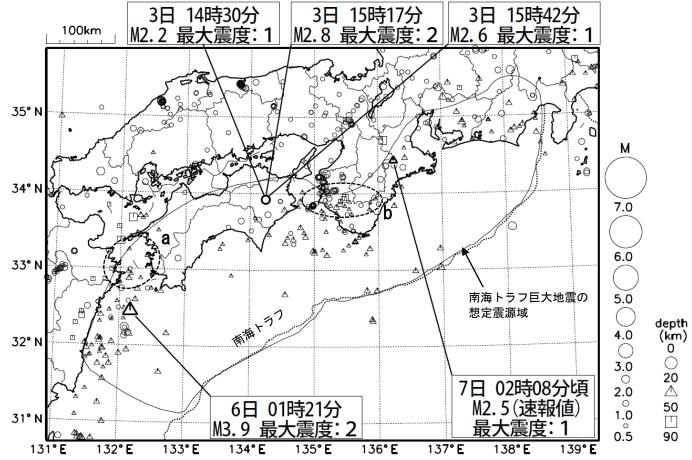
# 南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 23

\*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。 震央分布図(平成30年6月1日~6月7日)



"南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震"及び"その他注目した地震"に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している(M≧0.5、震源の深さO~90km)。

#### [概 況]

### 特に目立った活動はなかった。

#### [主な地震活動]

- ・3日15時17分に徳島県北部 $^{*1}$ の深さ9kmで $^{M2}$ .8の地震(最大震度2)が発生した。この地震の発生前後には、震度1を観測する地震が2回発生するなど、一時的に地震活動がやや活発となった。これらの地震は地殻内で発生した。
- ・6日01時21分に、日向灘の深さ28kmでM3.9の地震(最大震度2)が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。

## [主な深部低周波地震(微動)活動※2と地殻変動]

- ・3日から5日にかけて、豊後水道(領域a)を震央とする深部低周波地震(微動)を観測した。
- ・4日から6日にかけて、紀伊水道から和歌山県(領域b)を震央とする深部低周波地震(微動)を観測した。

※1:気象庁は、これらの地震に対して、震央地名[徳島県南部]で情報発表した。

※2:上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が高くない深部低周波地震 (微動)の震央は表示していない。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成している。